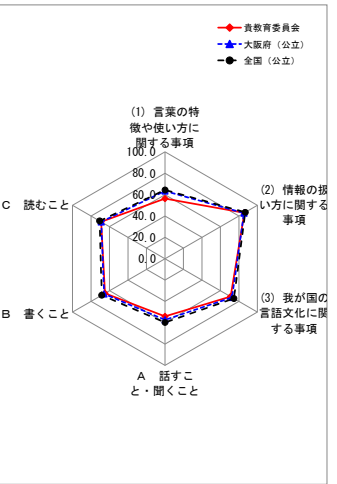


・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象児童数			阪南市教育委員会		大阪府（公立）	全国（公立）
			362		64,339	947,364
分類			区分	対象問題数 （問）	平均正答率（％）	
					貴教育委員会	大阪府（公立）
全体			14	63	66	67.7
学習指導要領 の内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	4	56.3	63.4	64.4
		(2) 情報の扱い方に關する事項	1	85.9	85.5	86.9
		(3) 我が国の言語文化に關する事項	1	71.0	72.6	74.6
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	54.1	57.3	59.8
		B 書くこと	2	64.9	65.9	68.4
		C 読むこと	3	69.1	69.0	70.7
評価の観点	知識・技能		6	63.7	68.6	69.8
	思考・判断・表現		8	62.4	63.9	66.0
	主体的に学習に取り組む態度		0			
問題形式	選択式		10	65.1	68.0	69.9
	短答式		2	52.5	58.7	59.7
	記述式		2	62.7	62.3	64.6

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

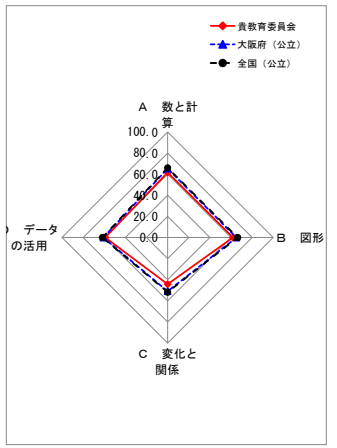
問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容					評価の観点 知識・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	問題形式 選択式 短答式 記述式	正答率（％）			無解答率（％）			
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等				貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）	貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）	
			(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 書くこと	B 読むこと									C 話すこと・聞くこと
1一	学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				5・6 ア			○	○	54.4	59.9	62.5	1.4	0.8	0.7
1二 (1)	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる	5・6 イ						○	○	67.4	74.0	75.9	1.7	0.7	0.6
1二 (2)	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる		5・6 ウ					○	○	46.7	50.1	52.9	1.7	0.8	0.7
1三	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる			5・6 ア				○	○	61.3	61.9	63.8	1.7	1.1	0.9
2一 (1)	高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる			5・6 ア				○	○	75.4	78.1	80.3	1.4	1.0	0.9
2一 (2)	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5・6 イ						○	○	85.9	85.5	86.9	1.4	1.1	0.9
2二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる			5・6 ウ				○	○	54.4	53.7	56.6	4.4	5.0	4.9
2三ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（きょうぎ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 エ						○	○	29.0	41.4	43.4	12.4	12.8	13.2
2三イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す（なげる）		5・6 エ							○	○	76.0	76.1	76.0	4.1	7.5
3一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる	3・4 カ						○	○	52.8	61.9	62.3	2.2	2.2	2.0
3二 (1)	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話しかけているかについて説明したものとして、適切なものを選択する	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる			5・6 イ				○	○	66.0	65.4	66.9	3.6	2.9	2.6
3二 (2)	【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる			5・6 エ				○	○	70.2	70.9	72.5	3.3	3.2	2.9
3三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる			5・6 エ				○	○	71.0	70.8	72.6	12.7	12.9	12.6
3四	【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる	5・6 オ						○	○	71.0	72.6	74.6	8.6	8.0	7.6

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象児童数		阪南市教育委員会		大阪府（公立）		全国（公立）	
		362		64,385		947,579	
分類	区分	対象問題数 （問）	平均正答率（%）				
			貴教育委員会	大阪府（公立）		全国（公立）	
全体		16	59	63	63.4		
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	61.6	65.3	66.0		
	B 図形	4	61.9	65.2	66.3		
	C 測定	0					
	C 変化と関係	3	44.2	50.9	51.7		
	D データの活用	4	59.1	60.9	61.8		
評価の観点	知識・技能	9	68.9	71.9	72.8		
	思考・判断・表現	7	46.3	50.5	51.4		
	主体的に学習に取り組む態度	0					
問題形式	選択式	5	71.9	74.5	75.3		
	短答式	7	55.9	61.2	62.0		
	記述式	4	48.3	50.1	51.0		

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



（注）「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点	問題形式	正答率（%）			無解答率（%）		
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用			貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）	貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）
1（1）	問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる	2（2） ア（3）					○	○	51.4	61.1	62.1	0.6	0.2	0.2
1（2）	はじめに持っていた折り紙の枚数を口枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	数量の関係を、口を用いた式に表すことができるかどうかをみる	3（7） ア（7）					○	○	86.2	88.1	88.5	0.6	0.3	0.3
2（1）	350×2=700であることを基に、350×16の積の求め方と答えを書く	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3（3） イ（7）					○	○	55.0	56.1	56.9	3.3	3.6	3.4
2（2）	除数が1／10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	5（3） ア（7）					○	○	66.6	68.3	69.1	1.4	1.4	1.3
3（1）	作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる	4（2） ア（7） イ（9）					○	○	83.7	84.8	85.5	0.8	0.7	0.6
3（2）	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる	5（1） ア（3）					○	○	71.5	69.9	71.3	0.8	0.9	0.8
3（3）	直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長さとは立方体の一方の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	3（1） ア（9） イ（7） エ（4） イ（7）					○	○	24.6	34.5	36.5	6.9	9.8	9.8
3（4）	五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く	角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	5（2） ア（7） イ（7）					○	○	67.7	71.8	72.0	1.9	1.9	1.8
4（1）	540÷0.6を計算する	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	5（3） ア（4）					○	○	68.5	70.0	70.1	3.0	3.1	3.1
4（2）	3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる				5（1） イ（7） 5（2） イ（7）		○	○	64.6	70.5	70.0	3.3	3.4	3.3
4（3）	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる				5（2） ア（7） イ（7）		○	○	25.7	29.2	31.0	2.2	2.4	2.4
4（4）	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	速さの意味について理解しているかどうかをみる				5（2） ア（7）		○	○	42.3	53.0	54.1	3.9	4.3	4.6
5（1）	円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる					5（1） ア（7）	○	○	81.2	80.6	80.8	1.9	1.9	1.8
5（2）	示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる					3（1） ア（7）	○	○	68.5	71.4	73.3	3.3	4.2	3.9
5（3）	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる					3（1） イ（7） 4（1） ア（4）	○	○	45.0	43.3	44.0	9.9	12.6	12.6
5（4）	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる	2（1） イ（7）				3（1） ア（7）	○	○	41.7	48.3	49.3	3.0	4.0	4.0

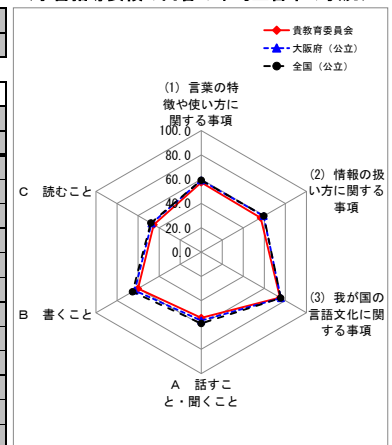
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象生徒数			阪南市教育委員会		大阪府（公立）	全国（公立）
			400		58,727	875,574

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）
全体			15	55	57	58.1
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	3	57.4	59.1	59.2
		(2) 情報の扱い方に關する事項	2	56.5	59.4	59.6
		(3) 我が国の言語文化に關する事項	1	75.0	75.8	75.6
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	54.2	56.4	58.8
		B 書くこと	2	60.1	63.3	65.3
		C 読むこと	4	45.1	47.2	47.9
		評価の観点		知識・技能	6	60.0
思考・判断・表現	9			51.5	53.8	55.4
主体的に学習に取り組む態度	0					
問題形式	選択式	9	59.0	60.4	61.0	
	短答式	3	60.5	62.0	61.8	
	記述式	3	36.9	42.2	45.5	

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



問題別集計結果

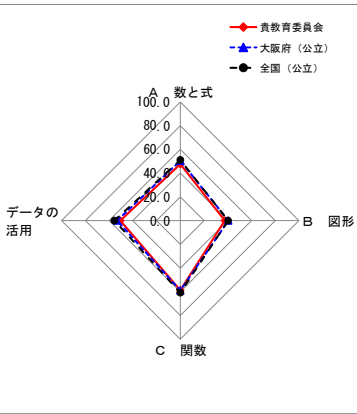
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率 (%)			無解答率 (%)		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）	貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）
			(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと												
1一	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる				1エ			○			○			59.3	60.9	63.2	0.5	0.3	0.4
1二	話合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる				2ウ			○				○		67.0	68.6	68.5	6.3	4.0	3.5
1三	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	1ア						○			○			39.8	43.8	44.0	0.8	0.4	0.5
1四	話合いの話題や発言を踏まえ、「これからのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				1オ			○					○	36.3	39.6	44.7	13.5	12.4	9.9
2一	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる					2ウ		○			○			30.8	36.0	36.3	0.8	0.4	0.5
2二	本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	2ア						○			○			73.3	75.0	75.2	0.5	0.5	0.6
2三	本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる					2ア		○			○			64.3	63.0	64.5	1.3	0.5	0.6
2四	本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる					1ウ		○				○		35.3	40.3	42.6	10.8	9.6	8.4
3一	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる				1ア			○			○			81.0	79.9	81.4	0.8	0.6	0.7
3二	物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる	2オ						○			○			53.3	53.4	53.8	1.8	0.9	1.0
3三	漢字を書く(ひきたりた)	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2ウ						○				○		64.3	68.2	68.8	14.5	10.6	10.2
3四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる				2ウ			○				○		39.3	46.7	49.3	22.3	17.1	15.0
4一	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する	表現の技法について理解しているかどうかをみる	1オ						○			○			54.8	55.7	54.9	1.8	1.1	1.8
4二	短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える	短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる				1イ			○			○			50.3	49.4	48.3	4.8	3.0	3.4
4三	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解しているかどうかをみる			1エ(4)				○			○			75.0	75.8	75.6	2.3	1.4	2.3

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象生徒数		阪南市教育委員会		大阪府（公立）	全国（公立）
		399		58,838	875,952
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）
全体		16	49	51	52.5
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	47.6	50.4	51.1
	B 図形	3	37.5	40.5	40.3
	C 関数	4	58.7	58.9	60.7
	D データの活用	4	50.5	53.3	55.5
評価の観点	知識・技能	11	59.8	61.9	63.1
	思考・判断・表現	5	25.9	28.2	29.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	56.3	56.9	58.5
	短答式	6	62.7	66.1	67.0
	記述式	5	25.9	28.2	29.3

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率（％）			無解答率（％）		
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）	貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）
1	nを整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す	連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	$\frac{2}{7}(1)$					○			○		34.1	34.7	34.8	17.0	16.1	14.3
2	等式 $6x + 2y = 1$ をyについて解く	等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる	$\frac{2}{7}(1)$					○			○		44.1	52.6	52.5	17.5	11.0	9.7
3	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ	回転移動について理解しているかどうかをみる		$\frac{3}{7}(1)$				○		○			66.4	67.5	68.3	0.5	0.4	0.3
4	一次関数 $y = ax + b$ について、 $a = 1$ 、 $b = 1$ のときのグラフに対して、bの値を変えずに、aの値を大きくしたときのグラフを選ぶ	一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる			$\frac{2}{7}(1)$			○		○			63.4	63.8	65.3	1.0	0.7	0.7
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表が出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる				$\frac{2}{7}(2)$		○			○		65.7	72.8	73.1	7.5	4.8	4.2
6（1）	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に3、－5を入れたとき、その和である□に入る整数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	$\frac{1}{7}(1)$					○			○		87.2	89.3	90.2	5.3	3.5	2.5
6（2）	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	$\frac{2}{7}(1)$					○			○		33.1	35.6	35.9	31.3	26.1	23.5
6（3）	正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する	統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	$\frac{2}{7}(1)$					○			○		39.3	39.6	41.8	37.1	33.4	29.6
7（1）	障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を求める	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる				$\frac{4}{7}(1)$		○			○		72.7	73.0	74.3	8.5	7.0	5.8
7（2）	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				$\frac{2}{7}(1)$		○			○		20.1	22.3	25.9	42.1	34.7	29.4
7（3）	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる				$\frac{2}{7}(1)$		○		○			43.6	45.0	48.5	1.3	0.9	0.9
8（1）	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフでy軸と交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる				$\frac{2}{7}(1)$		○			○		84.5	81.2	83.4	1.0	0.8	0.8
8（2）	18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる				$\frac{2}{7}(1)$		○			○		14.5	16.8	17.1	21.8	18.3	16.4
8（3）	結衣さんがかけたグラフから、18Lの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストーブの設定の組み合わせとその使用時間を書く	グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる				$\frac{2}{7}(1)$		○			○		72.4	74.0	76.9	5.0	4.8	3.8
9（1）	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、AQ＝PBであることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる				$\frac{2}{7}(2)$		○			○		22.3	27.0	25.8	41.4	35.2	33.6
9（2）	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、∠AQCと∠BPCの大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる				$\frac{2}{7}(2)$		○		○			23.8	26.9	26.7	4.8	3.2	4.5